

第17回那須アワード授賞式

那須ショートフィルムフェスティバル2022が11月5日から始まり、最終日の11月13日那須高原南ヶ丘牧場で、第17回那須アワード授賞式が行われました。

応募総数120作品の中から、22作品がノミネートされ、森翔太監督の「17クラブ」がグランプリを受賞し、平山町長から賞金とトロフィーが手渡されました。



新型コロナウイルスの終息を願って



10月26日～11月3日、旅館山楽で2人組漫画家〈姫川明輝^{ひめがわあき}〉の1人である本田安桂美^{やすけい}さんの作品展「瑞獣画展」が開催されました。姫川さんは、那須に伝わる九尾の狐伝説をモチーフにした「蘇る九尾狐プロジェクト9b」のアートディレクターを務めるなど、町の魅力発信に尽力されています。

瑞獣画展では神に仕える瑞獣・神獣を描いた作品が展示され、中には昔の絵師は疫病が流行ると祈願絵を描いたことになみ、新型コロナウイルスの終息を願って描いた108枚のオオカミの墨絵の一部なども並びました。

第38回那須町文化祭

10月16日～11月20日、文化センターで第38回那須町文化祭が開催されました。約1カ月間にわたり町文化協会会員のステージ発表や作品展示のほか、児童生徒の作品展示が行われました。



薄暮時間帯の交通事故に気を付けよう!



11月1日、那須町と那須塩原警察署の合同で交通安全の啓発を行いました。年末から年明けにかけて、薄暮時間帯（日没時刻の前後1時間）の視界が悪くなり、高齢歩行者と車両が衝突する交通事故が増加する傾向にあることから、歩行者用の反射材やキーホルダーなどを配布して注意喚起し、ドライバーには早めの前照灯の点灯や夜間のハイビームの励行を呼びかけました。

和い輪い学習フォーラムで熱い意見交換

11月18日に文化センターと那須中学校の2会場で開催された「第12回和い輪い学習フォーラム」では、町内の教職員、保護者、地域住民ら計174人が参加し「子どもたちの放課後・休日をデザインしよう!」をテーマに意見交換しました。

今年6月、スポーツ庁から公立中学校の部活動を段階的に地域移行するという提言がありました。本町の小中学校の部活動は各学校の教職員を中心に行われており、今後、部活動を含む放課後・休日の在り方が変わってることが予想されます。そこで、当事者である児童・生徒の保護者、教職員、地域住民の意見を聞くことが重要だと考え、熟議のテーマとしました。

熟議では、町の課題（児童生徒数・部活の選択肢が少ない、指導者がいないなど）の解決方法や部活動の地域移行が上手くいく方法、部活動に頼らない放課後を充実させるための方法をグループで話し合いました。



活発な意見を出し合い、熱い熟議になりました



平久井教育長は「部活動は、リーダーシップ・主体性・自己管理能力など、勉強では学べない豊かな人生送るための重要な力を養える。いただいた意見を今後の部活動のありかたに生かしていく」と述べました